

臨時農業生産情報

(高温に対する技術対策)

平成27年7月31日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

青森地方気象台発表（7月31日11時30分）の「長期間の高温に関する青森県気象情報第1号」によると、本県では7月11日頃から気温の高い状態が続いており、今後2週間程度は高気圧に覆われて晴れる日が多く、気温の高い状態が続く見込みとなっています。

今後の気象情報に注意し、次の事項に留意して、農作物の適正な管理に努めてください。

1 水 稲

- (1) 出穂後6～10日の期間に高温になると、胴割米などが発生し品質が低下しやすくなるので、開花が終了した水田では、水の入替えなどで水田水温の上昇を防ぐ。
- (2) 早期落水は品質低下を助長するので、落水の目安の「乾田で出穂後30～35日、湿田で出穂後20～25日」を守る。
- (3) 斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予想されているので、適期防除を徹底する。

2 畑作・野菜・花き

- (1) 施設栽培では、換気や遮光資材などによる温度管理を徹底する。
- (2) トマト等のハウス栽培では、生育に応じた追肥とかん水を行い、草勢を維持する。
- (3) 花きのハウス栽培では、マルチなどにより乾燥防止に努め、生育ステージに応じてかん水する。
- (4) 高温・乾燥が続くと、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

3 りんご等果樹

徒長枝の整理、支柱入れや枝吊りなどは、日焼けが発生しないよう高温時にはひかえる。

4 畜 産

- (1) 畜舎の防暑対策
 - ア 窓を開放したり換気扇や送風機を利用して、舎内の風通しを良くする。
 - イ 日除けの設置や屋根への散水・放水等により舎内温度を下げる。
- (2) 家畜の飼養管理
 - ア 飼料給与は、朝・夕の涼しい時間帯に行うほか、給与回数を増やすことで乾物摂取量を高める。
 - イ 新鮮な冷水を常に飲めるよう飲水環境を整える。
 - ウ 乳用牛では特に、乳量や乳成分の低下を防ぐため、良質の1番草を給与し、ビタミンやミネラルの補給に努める。また、種雄豚の交配は涼しい時を選び、供用は週2回程度とする。

エ 鶏は、十分に飲水させるとともに、夜間に給餌するなど、給餌時間を変える方法も有効である。

(3) 放牧牛の管理

ア 放牧は、木陰のある牧区を使い、ミネラルの補給を欠かさないようにするとともに、常に新鮮な冷水を飲めるようにする。

イ 放牧牛の行動をよく観察し、異常牛の早期発見・早期治療に努める。

5 農作業（熱中症の予防）

(1) 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる。

(2) 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する。

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(りんご等果樹) りんご果樹課生産振興グループ 西館主査 (水稲) 農産園芸課稲作振興グループ 竹澤主幹 (畑作・野菜、花き) 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ 今井技師 (畜産) 畜産課経営支援グループ 加藤技師
電話番号	(りんご等果樹) 直通 017-734-9492、内線 3262 (水稲) 直通 017-734-9480、内線 3457 (畑作・野菜、花き) 直通 017-734-9481、内線 3461 (畜産) 直通 017-734-9496、内線 3276
報道監	農林水産部 津島農商工連携推進監 内線 3181



【おしらせ】

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンや携帯電話にメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「アップルネット」からお申し込み下さい。